

## 令和2年度第1回矢巾町立学校運営協議会会議録

1 日 時 令和2年7月16日（木）午後6時30分～午後8時10分

2 場 所 矢巾町公民館 3階大研修室

3 出席者

（協議会委員）別紙委員名簿のとおり （欠席者）藤井照夫・佐藤美佳

（事務局員等）別紙名簿のとおり

4 内 容

○ 田中館学校教育課長

ただ今から令和2年度第1回矢巾町立学校運営協議会を開催いたします。

はじめに、矢巾町教育委員会 教育長 和田 修からご挨拶を申し上げます。

○ 和田教育長

本日は令和2年度第1回矢巾町立学校運営協議会開催に先立ちまして、ごあいさつさせていただきます。本日は岩手県教育委員会事務局 生涯学習文化財課から片方元昭先生をお招きして、コミュニティ・スクールについての説明をしていただきます。さて、今日7月16日は私たち矢巾町教育委員会にとって、とても重要な日になると思います。それは、こうやって学校運営協議会が今日をもって立ち上げることになったからです。

私は昨年、一昨年からコミュニティ・スクールについて、いろんな場面で話をしてまいりました。本来、コミュニティ・スクールについては1校に1つの協議会がいろんな地域で設立されてまいりました。でも矢巾町は違います。これから片方先生からご説明がありますが、その後私の方からも説明をさせていただきます。ここでは詳しいことは申し上げませんが、みなさんとともに日本の中で中々できなかったことを一緒になってやっていきたいと思えます。これは、矢巾の子どもたちを学区関係なく、小中学校それぞれの視線で、温かい眼差しで保護者も、地域の方々もみんな育てていこうということが目的です。是非それだけのご理解いただいて、この会をよろしくお願ひしたいと思えます。簡単ではありますが、ご挨拶とさせていただきます。

○ 田中館学校教育課長

それでは次第に沿って進めさせていただきます。続きまして辞令書の交付をさせていただきます。今回は初めてでございますので、皆様に辞令書を交付させていただきますが、時間の都合もございますので、代表の方にお願ひしたいと思います。名簿のほうは次第の次のページにございますが、名簿番号1番の金子美江子さんに代表して受領をお願ひしたいと思います。

（教育長から金子美江子委員へ辞令書を交付する。）

ありがとうございました。他の委員さんの辞令書は封筒の中に辞令書を入れておりますので、後ほどご確認願えればと思えます。

続きまして4の委員長及び副委員長の選任に移りたいと思えます。選任につきましては皆様の資料にあります、矢巾町立学校運営協議会の設置に関する規則第9条第1項に規定しておりますが、そちらに基づいて会長及び副会長は運営協議会委員の互選となっておりますが、どのような方法で行ったらよろしいか皆様にお諮りしたいと思います。

○ 川村委員

もし事務局提案があるのであれば、事務局提案でお願いいたします。

○ 田中館学校教育課長

いま事務局提案という意見がございましたが、みなさまいかがでしょうか。

○ 協議会委員

異議なし。

○ 田中館学校教育課長

ありがとうございます。それでは事務局の方からご提案させていただきたいと思います。名簿の方をご覧いただきたいと思いますが、名簿番号2番の女鹿隆徳委員に会長をお願いしたいと思います。それから15番の瀧 恵子委員に副会長をお願いしたいと思いますが、皆様いかがでしょうか。(拍手で承認する。)ありがとうございます。それでは5番の協議事項については会長の進行で進めてまいりますので、会長の席を準備いたします間しばらくお待ち下さい。(会長席準備)

○ 女鹿会長

ただいま会長に選出されました女鹿と申します。非常に大役をおおせつかったわけですが、皆様のお力をいただきながら、また、このコミュニティ・スクールというものについて馴染みのない方もいると思いますので、皆様からいろいろご意見を出していただきながら進めていきたいと思っておりますので、ご協力のほどよろしくお願いいたします。

それでは次第に沿って進めてまいりたいと思います。早速ですが協議事項に入りたいと思います。協議事項となっておりますが、コミュニティ・スクールと言うものについて、これから認識を深めていくために、この制度の説明を最初をお願いしたいと思います。

はじめにコミュニティ・スクールについての概要を、岩手県教育委員会事務局 生涯学習文化財課 地域学校連携担当 主任指導主事 片方元昭様に説明いただきたいと思います。片方様よろしくお願いいたします。

○ 主任指導主事 片方元昭

昨年度も矢巾町教育振興運動研修会でお邪魔させていただきました岩手県教育委員会事務局 生涯学習文化財課 地域学校連携担当の片方元昭と申します。本日は盛岡教育事務所から冨手主任社会教育主事もお邪魔させていただいております。

本日は第1回矢巾町立学校運営協議会という貴重な機会に立ち会わせていただき、本当にありがとうございます。私のほうからは、コミュニティ・スクールについて説明させていただきます。(以下、資料を基にコミュニティ・スクールについて説明)

○ 女鹿会長

ありがとうございます。それでは今の片方様のご説明に対しまして、何かご質問、ご意見でも結構ですけれども、ございましたら挙手により発言お願いいたします。いかがでしょうか。

それでは特に無いようですので、協議事項2番に進みたいと思います。

では2番の矢巾町のコミュニティ・スクールについての説明を、和田 修教育長のほうからお願いいたします。

○ 和田教育長

それでは私のほうから矢巾町のコミュニティ・スクールについて簡単に説明させていただきたいと思います。

(プロジェクターを使いながらコミュニティ・スクールについて説明)

○ 女鹿会長

ありがとうございます。ただいまのご説明について何かご質問等ございますか。よろしいですか。それでは無いようであれば2番の協議についても終了させていただきたいと思います。

それでは続きまして、協議事項3番に進めさせていただきます。令和2年度各小中学校の学校運営方針等についての協議に入ります。協議に入る前に各学校ごとに分かれていただきますので、ここからは事務局からお話があると思いますので移動のほうお願いしたいと思います。協議時間は30分くらいで終わらせたいと思いますので、よろしくをお願いします。

(事務局より各学校ごとに机を移動して協議に入るよう指示)

【各部会ごとに分かれて意見交換】

○ 徳田小学校 (小川校長先生から学校経営について説明)

・メディアダイエットについて、ただメディアの時間を減らすのではなく、メディアを減らした時間で読書やお手伝いをするなど違う形で時間を有効活用するように促すとよいと思う。

・子ども達の将来は、スマホやパソコンなどメディアを使いこなせなければいけない時代になっていくので、ただメディアを減らすというのではなく、子どもにとって必要なことは延ばしていくことが大切である。

・すべてのメディアを減らすのではなく、家庭でのルール作りなど、家庭に協力してもらいながら進めていかなければならない。

・コロナの影響により、今まで通りの活動ができなくなった。修学旅行など遠くに行く行事等はなかなか難しくなっている。また、今後も続いていく状況で、前と同じようにはできない。遠くに行かなくても地元で何か行事ができればよいと思う。

・徳田小学校には徳丹城が近くにあり、広い場所があるので、そこを活用して何かできないか。

・徳田小学区は古くから住んでいる方が多い地域である。おじいちゃんおばあちゃんと住んでいる家庭も多い。そのため地域と連携して何かすることはしやすいと思う。

○ 煙山小学校 (小笠原校長先生から学校経営について説明)

<委員>

今年度の学校での事故の発生状況は。

<校長>

一度救急車を呼んだことがある。1年生の児童が昇降口でぴかっぼのたすきが足に絡んでしまい、顔から転倒した。顔からの転倒のため、救急車を呼んだもの。

<委員>

マスクの着用についてはどのように指導しているのか。

<校長>

登下校時の着用は強制していない。熱中症対策をしながら、校内でのみ着用としている。声がけしないとなかなか着用しない子どももいるので、担任には指導するよう話している。

また、業間など外で遊んで帰ってきたときは、どうしても体が熱くなっているので、クールダウンさせてからマスクを着用してもらっている。体を動かすことは心の健康につながるため子供たちにとって必要であることから、どんどん外で遊んでもらいたい。

<委員>

あまり体を動かす機会がなくなると聞いたが、その分読書などの時間は増えているのか。

<校長>

休み時間になると図書の貸出しで、図書室に児童が集中するので、三密を避けるために、学年を分けて利用している関係で、読書冊数は減っている。

<委員>

保護者からのクレームはどのようなものがあるのか。

<校長>

保護者ではないが、バスの利用マナーが悪いだとか、下校中田んぼで遊んでいるといった連絡が最近あった。保護者対応については、何かあったときは必ず対面で行っている。電話や連絡帳だとニュアンスが伝わらず、関係が悪化することもあるので、担任にも必ず直接会って話をしよう指示している。また、田んぼなどで遊んでいるといった連絡は、田んぼの所有者ではなく通りがかったひとからの連絡が多い。連絡があった際は、すぐに出向き、子供たちがどうしてそのようなことをしているのかを丁寧に確認し対応している。そうすると「カエルがおぼれかけていたので助けてあげたかった」などといった子供たちなりの考えがある。そういった部分も大切にしながら対応に当たっている。

<委員>

ICT教育に取り組んでいるという話があったが、どういった内容か。

<校長>

ICTと言ってもパソコンだけではない。今、実物投影機といった機器があり、それを大型モニタに表示させて授業を行うことがある。単純に物を映すだけではなく、作業工程、たとえば手芸の編み方を映し出したりすることで、手元の動きをモニタで確認でき、非常に有効である。そういった機器が全教室に配備されているので、活用しているところである。

○ 不動小学校（吉岡校長先生から学校経営について説明）

<委員>

スキー学習の廃止により、地域住民とのかかわりが減った。スキー教室では保護者に講師になってもらい、児童3.4人に対し1人保護者についてもらっていた。ここ数年で講師依頼を学校からしても承諾してくれる親が少なくなってしまった。他の児童にけがをさせてしまえば責任が伴うので講師にはなれない、という保護者も。スキー教室の運営に関してのアンケートには、お金がかかる、危ないという意見が多かったという。これは全て保護者からの意見。子供たちはどう思っているのだろうか。子どものうちに挑戦をさせれば、大人になった時にもやりたいと思う。

とにかく子どもたちには色々な経験をさせてあげたい。できないなら雪合戦大会とかでもいいと思う。何かしらのきっかけを作ってあげたい。

<校長>

学校は意外と経験がたくさんできるようでできない。本当は、100 教えるより 1 見る・体験する方が子どもたちの印象に強く残る。

<委員>

今は保護者と学校で反発しているところがあるのも事実。個々の事情があることも分かっているが、保護者には賛成・反対ではなくて協力をしてほしい。その意識改善が出来ないといくら新しいアイデアを出しても地域とともにある学校づくりは出来ないと思う。不動っ子の集いも保護者の意見で存続危機になっている。

(ここで部会終了の合図)

<委員>

今後も話し合う場をつくってもらいたい。

<事務局>

部会について、今後開いていいものなのかこちらで把握しておりませんが、要望等ありましたら教育委員会に連絡をいただければと思います。

<校長>

貴重なご意見をたくさん聞くことができ本当に良かったです、今後もよろしくお願いいたします。

○ 矢巾東小学校（小山田校長先生から学校経営について説明）

<委員>

まなびフェストについての説明があったが、各学年での具体的な目標はあるのか。年間をとおしてその取り組んだ結果を確認したりすると思うが。

<校長>

学年経営方針を決めており、決める際にはまなびフェストに合わせて作成している。

<委員>

まなびフェストに「どこでも進んでスマイル あいさつができる子」とあるが、あいさつが良くなったね、などという声は聞こえているか。

<校長>

あいさつについては、生徒指導主事が毎月児童からアンケートを取っており、自己評価を行っている。

<委員>

東小のスマイルあいさつは有名であり、徹底して取り組んでいると思う。

<委員>

医大ができ、交通安全面がまだまだだと感じる。

<委員>

「医大附属病院開院による不審者対応」とあるが？

<校長>

はっきりとはわからないが、医大ができたことにより不特定多数の人の行き来が出てくるとい

うことで記載した。

<委員>

週に何度か街頭指導に出ているが、交通事故等心配だとなれば、毎日街頭指導に立たなければならなくなる。様々な意見があり、「毎日街頭指導に立つと、子どもの危険意識が育たないのではないか」と言う人もいる。

<校長>

医大は昨年9月にできたばかりなので、まだしばらくは必要だと感じている。信号機設置の要望は出したが、今後の見通しができてからでないと街頭指導の活動を緩めていくことはできないかと思う。全体での熟議の際に、交通安全についてもぜひ取り上げられると良いと考えている。

<委員>

あいさつに力を入れているとのことだったが、支援学校の職員からも東小児童があいさつをしてくれたという話を聞く。わかりやすいまなびフェストを作成し、それを地域の方とも共通認識することによって、地域の人からも「東小児童はスマイルあいさつ運動がんばっているね」というように、子どもたちの価値づけが図られていると思う。

<委員>

コロナ禍で難しいと思うが、ぜひこの部会で学校見学を行いたい。学校運営の基本方針を承認するからには、やはり現場を見ておきたい。

<校長>

少人数であれば可能だと思うので検討します。

○ 矢巾中学校（福士校長先生から学校経営について説明）

<委員>

学校評議員と学校運営協議会委員との違いは？

<事務局>

学校評議員は学校からの求めにより意見等行うものであるが、学校運営協議会委員は学校基本方針等への承認を行える強い責任が伴うものとなっている。責任は伴うが地域と一体となった学校運営を行うことができる。

○ 矢巾北中学校（山下校長先生から学校経営について説明）

<委員>

ICT教育に関し、地域の皆さんも含めて学習に関することや、それ以外のことに關しても非常に大きな意味を持つてくると思いますが、学校としてのビジョンとか、学校教育に取り入れてゆくとか、先生たちが研修をしていくと言ったようなことが、この学校運営の中には示されていませんが、校長先生のビジョンをお聞きします。

<校長>

かなりAIを使った学習教材も進んでおり、教科書にもQRコード等がついてきて、例えば地理などの教材でもQRコードを読み込むと、地域の画像が出てくるといったようになっているので、必須だと思います。現在学校ではタブレットを使った授業を行っており、数学、社会、美術、体育でも活用しております。そのための先生方の研修も必要と考えています。絶対学習効果は高いと考えています。

<委員>

今回のコロナ騒ぎでオンラインも急速に発展し、例えばオンラインにしても地域を超えて、海外でも良いですし、他の地域の人でも良いですし、ちょっとしたお話を授業に取り入れたりすることもできると思います。なかなか我々民間企業でも、そこに切り替わるまでには幾つもの壁を乗り越えるような状況があるので、先生方も忙しいとは思いますが、その辺も計画的に進めて行かないと、いざ学校が休校になりました、じゃあオンラインでやりましようと言ってもすぐにはできないことから、それも学校の一つの重点項目として組み込むことも必要かなと思います。学力向上に結び付くようなことも必要かなと思います。

<委員>

先ほどの重点項目の中で、人の命に関わることもあり、北中では非常に大切なものだと思いますし、PTAのスローガンとしても「笑顔」というものをテーマとしていたので、もちろん「命」と言うのは一番大切な項目だとは思いますが、やはり学校生活は楽しくないと、子どもたちだけでなく、保護者も先生みんなが笑顔である学校が一番だと思います。その他では、いじめに関するトラブル等があると思いますが、携帯電話にまつわるトラブルがどれ位あるのかなと気になります。矢巾町としては小中学生に持たせないことになっていますが、家庭によっては持たせている家庭もありますので、実際、僕の娘が在学中にトラブルもありましたので、学校としても把握に努めていただきたいと思います。

(ここで終了の合図)

○ 女鹿会長

すみませんが、時間となりましたので、ここで終了とさせていただきます。今の話し合いを踏まえまして、今後の取り組みを事務局から説明願います。

○ 田中館学校教育課長

それでは皆さん、席はこのままでよろしいです。各学校の部会に分かれて、どの部会でも話が盛り上がっていたように思います。先ほど教育長が言ったとおり、まさにこれが「熟議」の一つではないかなと思います。最終目標は令和3年度に向けて、それぞれの学校の方針を皆様に承認していただく、それから、矢巾町の特徴である一つの協議会として矢巾町の子どもたちをどうしたら良いのかという全体の方針も併せて承認をしていただくことが大目標であります。それぞれの部会の盛り上がりが継続し、部会ごとに話し合った結果を全体会で話し合っていて、それぞれの学校の方針をみんなで協議していただきたいと思います。

今年度はじめての会議で、手探り状態で我々も行っておりますので、皆様方からの意見も伺いながら行ってまいりたいと思います。また、今年度の具体的なスケジュールを説明いたします。資料をご覧くださいと思います。年間計画(案)という資料がございますが、今日7月に第1回運営協議会を開催させていただきました。このあと8月から1月まで間が空きますが、その間は皆様に情報提供を行いながら進めていきたいと思っています。このコロナ禍の最中で何回も会議を持つことが出来ないということですが、これは今年度に限ったことということでご容赦願いたいと思います。2月ごろに最終目標に向けて、夏から冬にかけて考えたことを2月に一つにまとめて、皆様に案をお示しさせていただきます。3月には各学校の方針や矢巾町としての全体の方針を承認していただく作業に移りたいと考えております。またこのメン

バーで集まっていたのは次回3月となりますが、各部会に職員を配置しております。部会として何か情報交換を行う可能性があります、顔を合わせることが中々できませんので、書面での情報交換となるかもしれませんが、それぞれの部会の職員が中心となって行いたいと思いますのでよろしくお願いいたします。全体的なスケジュールは以上です。

それでは次第に基づいて進めて参りますが、6のその他に移りたいと思いますが、皆様方から、何かご質問、ご意見等ございますでしょうか。

○ 佐々木三夫委員

運営協議会全体として、もしくは部会ごとにコーディネータを配置する予定はあるのかお聞きいたします。

○ 田中館学校教育課長

コーディネータはコミュニティ・スクールにおいては大切な役割を担うと思います。資料にもコーディネータの事が書かれておりますが、教育委員会としても是非配置したいと考えておりますが、これも最初から配置できなくて申し訳ありませんが、適任の方がおり配置した場合は学校と各地域をつなぐ役割を担っていただきたいと思います。

○ 藤村ゆみ子委員

私たちの運営する法人で、相談支援事業というものがありますが、障がいを持つお子さんたちの計画を立てる相談支援専門員なのですが、岩手県の相談支援専門員の中で学校さんのほうに個別支援計画をたてるにあたって、学校現場の様子、学校の教育をお聞きしてモニタリングなどをさせていただいております。ですが、なかなか相談支援専門員という名前が知られていないということで、どちらの方ですかと言われる学校さんも中にはありますので、ぜひ相談支援専門員が子どもさんの様子をお聞きしたいということがありましたら、ぜひ協力していただいて、障がいの子どもたちも一緒に矢巾町の中で生活できる環境を作っていきたいと思います。

○ 田中館学校教育課長

このように委員の皆様からの情報を共有するというのも、コミュニティ・スクールのなかで本当に大切だと思いますので、ぜひ部会ごとの情報交換でも結構ですので、学校にとって良い情報がありましたら皆さんで情報共有していただければと思います。

ほかにご質問等ございますでしょうか。

本日は長時間にわたりありがとうございます。以上をもちまして令和2年度第1回矢巾町立学校運営協議会を終了させていただきます。お疲れ様でした。

【午後8時10分 閉会】